

TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)に基づく情報開示

■TNFDとは

TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)は、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の自然版。民間企業や金融機関が、自然関連の課題を特定・評価・管理し、開示するためのリスク管理および情報開示の枠組み。

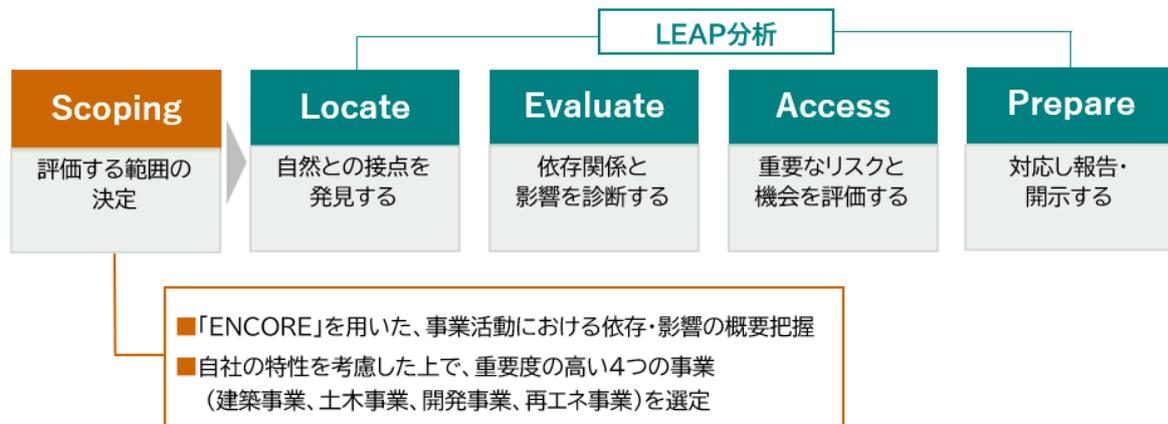
建設事業は、事業活動を行う上で木材や鉄、水といった多くの自然資源を利用するとともに、工事の過程で水・大気・土壌の汚染等の影響が伴うため、生態系への配慮が常に求められる事業です。

そのため、当社は自社の事業活動を通じて自然環境に負の影響を及ぼすリスクを正確に把握し、回避低減することが、我々の社会的責任だと考えています。

2024 年度実施概要

TNFD 開示における「スコーピング」は、自然との関わりを段階的に評価する LEAP アプローチの起点となる重要な工程であり、分析の対象となる重点事業を特定する作業となります。

当社は2024年度、TNFD が推奨する ENCORE を用いてスコーピングを実施しました。自然資本との関係性を評価・分析した結果、建築・土木・開発・再エネの 4 事業を重要度の高い事業として選定しました。選定にあたっては、ENCORE の分析結果だけでなく、事業規模や自然との関わり直接性など、自社の特性も考慮した上で、事業ごとにサプライチェーンの上流から下流まで、自然資本への依存・影響を整理しました。



2024 年度実施結果

分析の結果、当社の事業活動においては、サプライチェーン上流と直接操業のフェーズで自然資本への依存・影響が大きいことを確認しました。

サプライチェーン上流で特定(抽出)した木材調達に関しては、森林破壊ゼロ方針のもと、「生物多様性ガイドライン【木材調達編】」に定められた管理指標に基づき、サプライヤーと協働した活動を推進しています。

一方で、直接操業である建設工事現場の自然関連リスクの把握については、限定的であるという課題が明らかになりました。今後は、このギャップを解消するため、生物多様性上重要なエリアに近接する作業所を順次特定し、管理体制の強化を進めてまいります。

スコーピングによる分析

